



第27回日本消化器癌発生学会を 開催するにあたって

第27回日本消化器癌発生学会を平成28年9月15、16日に鹿児島市で開催させていただきます。今回のテーマは「種芽木林 一癌発生、進展と制御」とさせていただきます。癌の観点からみると、1個の細胞から癌が発生し(種)、分裂を繰り返し、次第に顕性化し臨床的に画像で捉えられるようになり(芽)、やがて大きな腫瘍となり(木)、最終的に転移巣を形成する(林)、この過程をイメージしたものです。一方、癌の発生・進展に対して、私たちは基礎および臨床研究を通じて、診断・治療に応用し、患者さんに貢献していくことが責務であります。癌研究という観点からは、研究のシーズ(種)を育み、次第に結果が出る(芽)と注目され始め研究費等も獲得でき、さらに研究が進展し(木)、最終的に多くの施設との共同研究に結実していく(林)、このような姿をイメージしました。

シンポジウムとして、1. 各種臓器で発癌には様々な因子が関与していますが、中でも関連が深い「消化器癌の発生と感染や炎症の関与」2. 発癌後のプロセスとして重要である「消化器癌の進展・転移のメカニズムと制御について」3. 消化器癌の治療には書くことができない「消化器癌の遺伝子異常と抗癌剤や放射線感受性・耐性」、4. 最近特に注目を集めている「消化器癌の免疫 ー基礎から臨床へー」の4つを取り上げました。

シンポジウムには多くの演題を応募いただき、一般演題(口演、ポスター)を含めると合計で200題の応募をいただきました。応募いただきました先生方には厚く御礼を申し上げます。特別講演を2題(がん研究所所長野田哲生先生、ペンシルバニア大学消化器内科 中川裕先生)、大原賞、田原賞、受賞講演、理事長直轄プロジェクト講演、研究奨励賞発表などを予定しております。近日中にプログラムをお手元にお届けできますように、現在、鋭意プログラムを作成中であります。

9月の鹿児島はまだ夏真っ盛りですが、暑さを忘れるくらいの熱い学会になることを期待しております。学会で一生懸命に勉強された後に、鹿児島の秋と焼酎、食材(黒豚、黒牛、黒鳥など)を思う存分堪能していただければと思います。多くの皆様のご参加をよろしく申し上げます。



第27回日本消化器癌発生学会
会長 夏越祥次
(鹿児島大学消化器・乳腺甲状腺
外科)



目次

第27回日本消化器癌発生学会 開催するにあたって	1
第26回日本消化器癌発生学会総会のご報告	2
平成27年度日本消化器癌発生学会 理事会議事録	3~5
役員・評議員名簿	6~7
編集後記	8

第26回日本消化器癌発生学会総会のご報告

第26回日本消化器癌発生学会総会を、平成27年11月19日、20日の両日に、鳥取県米子市の米子全日空ホテルを会場に開催させていただきました。今回のテーマは、「癌研究のフロンティアを拓く」としました。消化器は癌発生のメインサイトであり、本学会の研究結果が、癌研究のフロンティアを拓くのだという会員の皆様の意欲と矜持を、このテーマで表現させていただいたつもりです。

特別講演は、東京大学の間野博行先生と九州大学の中山敬一先生にお願いしました。間野先生は、肺癌のALK遺伝子の発見者で、肺癌治療を大きく変えた、わが国が誇る癌研究の第一人者です。間野先生のご講演は、非常に情熱あふれ、新規の抗癌剤開発に繋がるご研究をお話いただきました。「癌研究はかくあるべし」とお示しいただきました。中山先生は、膨大なプロオミックス解析、さらにはシステムバイオロジーに研究を進展させられ、見事な研究成果に圧倒される思いでした。

シンポジウムは5企画を予定しました。シンポジウムのテーマは、昨年の本学会の演題を領域と課題ごとに分類し、会員の最も興味ある課題をシンポジウムのテーマに取り上げました。シンポジウム1のテーマは、「消化器領域の腫瘍免疫研究の新展開」で、司会を鳥取大学の池口正英先生と岡山大学の藤原俊義先生、特別発現を九州大学の米満吉和先生にお願いしました。シンポジウム2のテーマは、「消化器癌のリスクファクター解析とバイオマーカー探索」で、司会を東京大学の瀬戸泰之先生と金沢大学の源利成先生、特別発言を聖マリアンナ医科大学の伊東文生先生にお願いしました。シンポジウム3のテーマは、「消化器癌のゲノム・エピゲノムの多様性：

治療抵抗性の分子機構」で、司会を市立池田病院の篠村恭久先生、国際医療福祉大学の高後裕先生、特別発言を金沢大学の太田哲生先生にお願いしました。シンポジウム4のテーマは、「消化器癌組織の微小環境の分子機構」で、司会を広島大学の安井弥先生、浜松医科大学の今野弘之先生、特別発言を鹿児島大学の夏越祥次先生にお願いしました。理事長直轄プロジェクトのテーマは、「癌の浸潤・転移の新たなメカニズム」で、司会を九州大学別府病院の三森功士先生、九州大学の調憲先生、特別発言を大阪市立大学の平川弘聖先生にお願いしました。その他に、テクノロジーセミナーのテーマを「メタボロミクス解析の消化器癌研究への導入」とし、司会を鳥取大学の辻谷俊一先生にお願いしました。

今回、多数の御参加を頂き、盛会裏に学会を終了することができ、大変有難く存じております。これも会員の皆様のおかげであり、会長としての安堵しております。



鳥取大学大学院医学系研究科
遺伝子医療学部門
汐田 剛史



平成27年度日本消化器癌発生学会理事会議事録

日時：平成27年11月18日（水） 16：10～17：10

会場：米子全日空ホテル・2階「琥珀鳥」

出席者（敬称略）

理事：前原喜彦、太田哲生、掛地吉弘、小寺泰弘、
汐田剛史、篠村恭久、島田光生、瀬戸泰之、
夏越祥次、馬場秀夫、松原久裕、三森功士

監事：竹之下誠一、平川弘聖

事務局幹事：愛甲 丞、調 憲、野村幸世

オブザーバー：吉住朋晴

事務局：齋藤英司

委任状（敬称略）

理事：伊東文生、牛島俊和、岡 正朗、落合淳志、
北川雄光、桑野博行、高後 裕、今野弘之、
源 利成、森 正樹、安井 弥、横崎 宏、
吉田和弘

前原理事長が議長となり開会の挨拶を述べ、また、汐田会長より第26回日本消化器癌発生学会開催にあたっての挨拶があった。

前回議事録を承認したのち、前原理事長が議事録署名人として掛地吉弘理事、夏越祥次理事を指名し、議事が進められた。

第1号議案 庶務報告

調事務局幹事より、会員の動向が次の通り報告された。

平成26年11月から平成27年10月までに入会34名、退会23名の増減があり、平成27年11月10日現在の会員数は921名である。

第2号議案 役員選考委員会報告

馬場理事より以下の報告があった。

①役員について

- ・定年により理事を退任される先生方について、岡正朗理事、高後裕理事、篠村恭久理事、平川弘聖監事は名誉会員に推挙し、引き続き本学会を支援していただくことが提案され、全会一致で承認された。
- ・定年により評議員を退任される後藤満一評議員、塚田一博評議員、山口明夫評議員について特別会員に推挙し、引き続き本学会を支援していただくことが提案され、全会一致で承認された。
- ・2017年の第28回総会の会長について熊本大学の馬場秀夫理事が推薦され、全会一致で承認された。また、2017年の第28回総会については3年に1度の国際消化器癌発生会議の開催年に当たることから、馬場理事に国際学会も開催を依頼することが確認された。

②理事選考について

- ・平成21年度第3回理事会での「運用上理事定員を若干

上回ることも許容される」との議決に基づき、鈴木拓評議員（札幌医科大学）が理事として推薦され、全会一致で承認された。

- ・監事については太田哲生理事が推薦され、全会一致で承認された。

③評議員選考について

- ・新評議員として以下の3名が推薦されていることが報告され、全会一致で承認された。

奥村 知之 先生（富山大学消化器・腫瘍・総合外科）

田中 浩明 先生（大阪市立大学大学院腫瘍外科学）

山田 岳史 先生（日本医科大学消化器外科）

以上について審議を経て承認し、評議員会、総会に諮ることとなった。

第3号議案 国際委員会報告

掛地理事より以下の報告があった。

- ・昨年の第8回については、本学会の第25回総会と完全な合同学会として前原理事長が会長として開催された。
- ・今後の国際学会の開催は、海外では難しい事情があるので、3年に1度程度の頻度で日本で開催することがISGCのボードミーティングでも承認されている。
- ・評議員から徴収している年間1,000円の会費については、国際学会開催の際の海外講演者の招聘旅費の一部として使用することが承認されており、次回2017年ごろには90万円ほどまで積み立てが見込まれる。
- ・次回の開催については2017年度の開催を予定しており、2017年の第28回日本消化器癌発生学会は熊本大学の馬場理事が会長候補として名前が挙がっていることが説明され、理事会、評議員会にて馬場理事が次々期会長に選出された場合には、馬場理事に国際学会のお世話をお願いすることが確認された。

以上について審議を経て承認し、評議員会、総会で報告することとなった。

第4号議案 研究推進委員会報告

三森理事より、G-project（安井弥先生）において、既存のdriver geneの胃癌および大腸癌の発現の臨床的意義について免役染色で確認して、P53変異発現およびEGFR過剰発現が予後・再発と有意相関ありと確認し、論文発表に成功したというこれまでの経緯を踏まえて、理事長直轄の研究推進プロジェクトとは別の新しいプロジェクトとして、以下の意見が取りまとめられたことが報告された。

- ・すでに動物実験等でPOCを取得した分子、あるいは

少数検体で調べられた分子に着目し、多施設共同で検体(原発巣と血液など)を持ち寄り、特に悪性度の高い癌腫につき、“発癌”“予後”または治療のコンパニオン診断マーカーとしての臨床的意義を明らかにし、本学会発の論文発表をめざす。

例) PLS3 血液; 大腸癌 (Cancer Res 2013)、乳癌 (Br J Cancer 2015)

Apolipoprotein 血液; 膵癌 (Sci Rep 2015)
線虫集積尿; (PLoS One 2015)

以上について審議を経て承認し、評議員会、総会に諮ることとなった。

第5号議案 学会賞選考委員会報告

掛地理事より以下の報告があった。

- ・大原賞、田原賞については、各委員による採点の結果を踏まえた前原理事長と桑野委員長による協議の結果、大原賞受賞者を山本博幸先生(聖マリアンナ医科大学内科学)、田原賞受賞者を柴田龍弘先生(東京大学医科学研究所)に決定し、委員会、理事会の持回り審議で承認を得ていることが報告された。
- ・研究奨励賞については、事前に持ち回りで行った採点の結果、応募のあった以下の4名全員を受賞者とし、委員会、理事会の持回り審議で承認を得ていることが報告された。
 - ◇清水 大 先生(名古屋大学大学院医学研究科消化器外科学)
 - ◇岩槻 政晃 先生(熊本大学大学院消化器外科学)
 - ◇三橋 慧 先生(札幌医科大学消化器・免疫・リウマチ内科学講座)
 - ◇向山 順子 先生(神戸大学大学院医学研究科外科学講座食道胃腸外科学分野)
- ・研究奨励賞の賞金額については合計100万円を予算としており、1件当たり20万円として合計80万円を授与することが、承認された。
- ・平成28年度の大原賞、田原賞、研究奨励賞の募集スケジュールについても例年通り行われることを確認している。

以上について審議を経て承認し、評議員会、総会に諮ることとなった。

第6号議案 倫理問題検討委員会報告

野村事務局幹事より以下の報告があった。

- ・学会役員及び各委員会委員長、倫理問題検討委員は平成26年1月1日から12月31日までの期間の利益相反自己申告書の提出が義務付けられ、全対象者から提出されていることが確認された。

以上について審議を経て承認し、評議員会、総会で報

告することとなった。

第7号議案 財務委員会報告

島田理事より以下の報告があった。

- ・平成26年度の決算について
 - ・会費収入が予算を上回ったが、バナー広告などが大きく予算を下回った。
 - ・支出については研究奨励賞が予算を上回ったが、その他の縮減により、ほぼ予算通りの支出となった。
 - ・以上の結果、繰越金の増加があった。
 - ・これらについて、竹之下誠一監事、平川弘聖監事より適正に執行されていることを確認したとの監査報告書が提出されている。
- ・平成27年度の予算案について
 - ・収入については平成26年度決算を基にした予算建てとなっており、昨年0だったバナー広告に関して今年は獲得を見込んでいる。
 - ・支出についても一般社団法人化経費を見込んでおり、多少の増額があるものの、財政的には安定している。
 - ・未納者リストについて、会費の支払いについて各理事の協力をお願いしたい。

決算案については、竹之下監事からも平川監事と共に適正に執行されていることを確認している旨の発言があった。以上について慎重な審議を経て承認し、評議員会、総会で報告することとなった。

第8号議案 在り方委員会報告

夏越理事より以下の報告があった。

- ・会員数の増加に浮いて、会員数1,000人を目標に、特に基礎系会員の増加を目指して各評議員が会員獲得に努めるよう活動を続けることが確認された。
- ・一方会費の未納者の問題もあるので、会費の督促、長期滞納者への対応が課題となる。
- ・理事長直轄プロジェクトは順調に進んでいる。
- ・学会参加者の増加を目指して、臨床の先生が発表しやすいテーマを検討する。
- ・来年の学会ではスライド、ポスターを英語化することが確認された。

以上について審議を経て承認し、評議員会、総会で報告することとなった。

第9号議案 会則委員会報告

汐田理事より会則の改正案について資料を基に以下の案が示された。

●日本消化器癌発生学会会則

第9章 解散

第23条 解散および残余財産の処分

【変更前】

1. 本会は、理事会および評議員会においてそれぞれ構成員の3/4以上の同意を得たうえ、総会において正会員の3分の2以上の同意を得て解散することが出来る。

【変更後】

1. 本会は、理事会および評議員会においてそれぞれ構成員の3分の2以上の同意を得て解散することが出来る。

この改正案について、一般社団法人の設立に伴って、現行の任意団体の学会を解散する必要がある、そのハードルを下げるためのものである旨、補足説明があった。

また、汐田委員長より、細則の改正案について、資料を基に以下の案が示された。

- 日本消化器癌発生学会会則施行細則第1号
第4節 理事長についての細則

【変更前】

2. 理事長の任期は2年とする。但し、再任の場合は3期を越えないものとする。

【変更後】

2. 理事長の任期は2年とする。但し、再任の場合は4期を越えないものとする。

この改正案について、本来なら前原理事長の任期が今期で3期目となり任期満了となるが、もう1期だけ任期を延長して、前原理事長のもと責任を持って一般社団化を行いたい旨、補足説明があった。

以上について審議を経て承認し、評議員会、総会で報告することとなった。

また、昨年の理事会、評議員会、総会で承認された一般社団法人化後の定款案についても確認が行われ、定款案の理事長任期も今回の細則変更に合わせて、変更してはどうかとの意見があり、以下の修正を行うことが全会一致で承認された。

- 一般社団法人日本消化器癌発生学会定款案
第33条 代表理事

【変更前】

- 6) 理事長及び副理事長の再任は妨げない。ただし、連続して3期を超えてはならない。

【変更後】

- 6) 理事長及び副理事長の再任は妨げない。ただし、連続して4期を超えてはならない。

第10号議案 第25回学会総会（2014年）報告

第25回日本消化器癌発生学会総会は、平成26年11月13～14日に福岡市のホテル日航福岡で、第8回国際消化器癌発生会議と合同で開催され、202題の演題があり、盛況であった旨、前原理事長より報告された。

第11号議案 第26回学会総会（2015年）報告

第26回日本消化器癌発生学会総会について汐田理事より挨拶があり、平成27年11月19～20日に、鳥取県米子市の米子全日空ホテルで開催される予定であることが報告された。

第12号議案 第27回学会総会（2016年）報告

第27回日本消化器癌発生学会総会について夏越理事より挨拶があり、平成28年9月15～16日に、鹿児島市の城山観光ホテルで開催される予定であることが報告された。

第13号議案 第28回学会総会（2017年）報告

第28回日本消化器癌発生学会総会会長に馬場理事が推薦されたことが報告され、馬場理事より改めて挨拶があり、時期は検討中であるが、熊本市で第9回国際消化器癌発生会議と合同で開催される予定であることが報告された。

第14号議案 その他

年会費の納入状況について、前原理事長より2010～2015年の6年間の全会員の会費納入状況資料が示され、特に正会員で会費の納入率が55%前後と低い状況について、今回の一般社団化を契機に、2年続けて未納の場合は退会という会則の規定に従い、長期滞納の会員に対して継続の意向確認、会費の督促を行う予定であることが説明され、全会一致で了承された。

以上

役員名簿

2015年11月21日から

理事長 前原 喜彦

会長 夏越 祥次

副理事長 桑野 博行

次期会長 馬場 秀夫

理事 (23名)

伊東 文生 牛島 俊和 落合 淳志
 掛地 吉弘 北川 雄光 桑野 博行
 小寺 泰弘 今野 弘之 汐田 剛史
 島田 光生 鈴木 拓 瀬戸 泰之
 夏越 祥次 馬場 秀夫 前原 喜彦
 松原 久裕 源 利成 三森 功士
 森 正樹 安井 弥 横崎 宏
 吉田 和弘

監事 (2名)

太田 哲生 竹之下誠一

事務局幹事 (4名)

調 憲 野村 幸世 愛甲 丞
 吉住 朋晴



名誉会員・特別会員名簿

2015年11月21日から

名誉理事長 (3名)

大原 毅 杉町 圭蔵 上西 紀夫

特別会員 (41名)

朝倉 均 磯野 可一 岩永 剛
 岡島 邦雄 小川 健治 冲永 功太
 笠原 正男 兼松 隆之 川口 実
 木村 健 工藤 進英 熊谷 一秀
 後藤 満一 斉藤 利彦 塩崎 均
 白水 和雄 砂川 正勝 炭山 嘉伸
 曾我 淳 高橋 俊雄 竜田 正晴
 田中 紀章 田久保海誉 田淵 崇文
 塚田 一博 徳永 昭 西野 輔翼
 服部 隆則 比企 能樹 平山 廉三
 廣田 映五 藤田 力也 藤盛 孝博
 船曳 孝彦 松川 正明 松倉 則夫
 三木 一正 武藤徹一郎 武藤 泰敏
 棟方 昭博 安富 正幸 山口 明夫
 山川 達郎 渡辺 敦光
 小西 陽一 馬場 正三

名誉会員 (28名)

愛甲 孝 青木 照明 井藤 久雄
 今井 浩三 内田 雄三 江角 浩安
 岡 正朗 小川 道雄 小俣 政男
 金澤暁太郎 北島 政樹 高後 裕
 小西 文雄 佐治 重豊 篠村 恭久
 杉村 隆 菅野健太郎 曾和 融生
 立松 正衛 田原 榮一 田尻 孝
 寺野 彰 平川 弘聖 平田 公一
 二川 俊二 三輪 晃一 宮崎 耕治

物故者

恩田 昌彦 下山 孝 長町 幸雄
 長與 健夫 磨伊 正義 久保田哲朗
 豊田 実

評議員名簿

2015年11月21日から

愛甲 丞	相島 慎一	浅尾 高行	油谷 浩幸	池上 徹	池口 正英	池田 哲夫
池本 哲也	石神 純也	石河 隆敏	市川 大輔	伊藤 心二	伊東 文生	今西 達也
居村 暁	上野 真一	牛島 俊和	内田 英二	宇都宮 徹	江頭 明典	江上 寛
江見 泰徳	大上 直秀	大賀 丈史	太田 哲生	大段 秀樹	大辻 英吾	大平 雅一
緒方 杏一	緒方 裕	岡野 慎士	岡山 洋和	沖 英次	奥村 知之	奥村 浩
長田 真二	小田 義直	落合 淳志	甲斐 敬太	掛地 吉弘	片岡 洋望	加藤 俊二
加藤 広行	金田 篤志	神山 俊哉	川中 博文	川又 均	北川 雄光	北台 靖彦
楠本 哲也	國安 弘基	久保 正二	久保田英嗣	隈元 謙介	倉本 秋	栗田 信浩
桑野 博行	鴻江 俊治	小寺 泰弘	今野 弘之	齋藤 元伸	佐伯 浩司	坂本 一博
佐々木 欣郎	澤田 鉄二	汐田 剛史	島崎 猛夫	島田 信也	島田 光生	嶋田 裕
嶋本 文雄	清水 伸幸	城 卓志	白川 靖博	調 憲	末廣 剛敏	菅井 有
杉原 洋行	杉町 圭史	鈴木 秀樹	鈴木 拓	瀬戸 泰之	仙谷 和弘	副島 雄二
高橋 孝夫	高橋 典彦	高森 啓史	武富 紹信	竹之下 誠一	田中 信治	田中 成岳
田中 浩明	塚本 徹哉	辻谷 俊一	寺島 雅典	藤 也 寸志	富田 尚裕	内藤 善哉
中島 秀彰	長田 成彦	仲田 文造	中森 正二	中山 淳	夏越 祥次	榎原 啓之
西森 英史	西山 正彦	能正 勝彦	野村 幸世	橋本 大輔	秦 史壮	馬場 秀夫
馬場 祥史	東島 潤	檜井 孝夫	檜原 淳	福井 宣規	藤井 茂彦	伏田 幸夫
藤村 隆	藤原 俊義	藤原 義之	別府 透	前原 喜彦	前村 公成	松橋 延壽
松原 長秀	松原 久裕	松本 伸行	真船 健一	源 利成	峯 徹哉	三森 功士
宮内 英聡	宮崎 達也	宮下 知治	宮地 和人	向所 賢一	武藤 倫弘	森 正樹
森田 勝	森根 裕二	守山 正胤	八尾 隆史	八代 正和	安井 弥	八十島孝博
谷内田真一	山口 悟	山口 佳之	山下 公大	山下 裕玄	山下 洋市	山田 岳史
山本 博幸	横崎 宏	横堀 武彦	吉川 幸造	吉住 朋晴	吉田 和弘	吉田 優
吉永 敬士	吉松 和彦	米満 吉和	渡邊 聡明	渡邊 雅之		

編集後記



発行 日本消化器癌発生学会事務局
〒102-0072 東京都千代田区飯田橋3-11-15
UEDAビル6F
株式会社クバプロ内
TEL : 03-3238-1689 FAX : 03-3238-1837
発行者 日本消化器癌発生学会
編集 総務委員会
印刷 福々印刷株式会社